

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200140		
法人名	株式会社 雄清		
事業所名(ユニット名)	グループホームなかはや		
所在地	和歌山県田辺市中芳養917-7		
自己評価作成日	令和1年9月11日	評価結果市町村受理日	令和1年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和1年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が地域の中で、その人らしい生活が送れるよう支援していくという基本姿勢の元、屋内に閉じこもる事のないように、近隣へ散歩出かけて花を眺めたり、玄関先でお茶会を開いたり、ツバメの巣を見上げて成長を喜んだりと少しでも外気に触れ、身近な所で楽しみを見つけて感動する機会を多く持てる様に支援しています。又、屋内でも職員のリードでラジオ体操やレクリエーション、懐メロや童謡を歌って過ごすことも楽しみとなっています。利用者の重度化により懸念されていた終末期の支援についても全員で計画的に取り組み、看取りの支援を経験したことにより、専門職としての責任を再認識する機会となりました。地道な積み重ねを継続することで、利用者やご家族、又、地域の方々からも評価していただける事業所を目標として日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設側の入居者・家族に対する人間性を重視した対応姿勢が職員達に普及し、業務の中によく反映されているとともに、施設内外の研修に積極的参加し質の向上に努められている。事業所が主催する花見においては、入居者全員に楽しんで参加していただくため、福祉車両(乗降シートつき)を購入したり、スタッフが常に付き添うなど入居者が心から楽しめる雰囲気作りに向け努力されている。職員達には看取り経験を積む事で専門職としての学びを深めていく意気込みが見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、入居者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げると共に理念を具体化したものを示しており、いつでも確認できるようにしている。管理者、職員は常に利用者、家族に満足して貰えるよう、又、職員の自己成長も図りながら理念達成に向けて取り組んでいる。	入居者家族の安心安楽を中心に考えての理念であり、管理者・スタッフは自己成長も図りながら理念達成に向けて日常的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、幼稚園児を招待して交流会を開催し歌やダンスを披露して貰い、一緒にレクリエーションを楽しんでいる。夏祭りでは地域の方と一緒に盆踊りをし、夜店も出して子供達に喜んで貰っている。秋祭りは馬を玄関先に連れてきてくれ、馬子唄を歌ってくれている。	毎年幼稚園児を施設に招待しており、園児の歌やダンスを披露していただき一緒にレクリエーションを楽しんでいる。また、小学校で行われる夏祭りの盆踊りに参加するとともに、施設から夜店を出して子供たちに喜ばれる交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、小学校の体験学習を受け入れており、幼稚園児や地域の方々の訪問もある。事業所の存在や認知症の方への理解は確実に深まっており、地域貢献に繋がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況や取り組み内容を報告している。今年は利用者に提供している手作りおやつを食べて貰った。又、避難訓練や外部評価等についても話し合いの機会を持つと共に地域行事の情報や意見を頂く中で積極的に実践に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議には市担当職員、町内会長・副会長、地区民児協会長に参加いただき、施設利用状況等を報告するとともに、地域行事情報を提供いただいたり、避難訓練や外部評価等についても話し合う等幅広い意見交換を重ね、それをサービス向上に活かす努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当職員に運営推進会議に出席して貰っており、事業所の実情や取り組みを話して意見等を頂いている。又、日常的には各部署の担当職員と連携を図りながら助言等頂いている。	市担当職員とは、日常的に入居・退去の相談など積極的な参加助言をいただくとともに、制度の変更時などにも助言や情報交換を図るなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員は身体拘束の内容と弊害について年2回の研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいるがやむを得ず一時的に拘束を行う必要がある場合は家族に説明し理解を得た上で書面にて同意を得ている。開始後も解除に向けて話し合いを行い記録に残し、運営推進会議内に設置した廃止委員会で検討を行っている。又、玄関は夜間以外は通常開放しており、自由に入出入りできるようになっている。稀に利用者の不穏時で職員体制が手薄となった場合、施錠する事がある。	施設として、年に2回研修を実施し、車イスの移動時の保護ベルトの使用に付いても検討を重ねるなど拘束のないケア実践に向けて取り組んでいる。やむを得ず一時的に拘束する場合は、家族の同意を得るとともに、拘束廃止委員会を設置し検討を重ねるなど利用者に対応した対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止についての研修などに参加したり、勉強会を実施して正しく理解し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加して制度の理解に努めているが、具体的に対象となる方がおられない為、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や法改正等による改定があった場合は文書等を準備した上で家族に説明し、十分納得される様に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月の様子を写真を添え手紙でお届けし、体調等変わった事があれば、その都度、電話やメールで報告している。又、来訪時には出来るだけ時間をかけて要望や意見を聞かせて貰うようにしており、日々の業務等に反映させている。	家族の意見や要望など日頃から意識して聞く機会を設けるとともに、その意見を運営に出来る限り反映させるよう努力されている。また、家族には毎月の様子を手紙・メール・写真など具体的な形で連絡・報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議の中で職員から意見や要望などを聞いているが日常業務の中でも、その都度、意見が出されている。又、年に1~2回個人面談を行ったり問題が起きた場合は緊急会議を開き、職員の意見を聞く機会を設けており、出された意見は運営に反映するように努めている。	毎月1回のリーダー会議において、職員からの運営に関する意見・要望は協議されるが、日常業務における一寸したことでも検討するようにしている。又個人面談でも多くの自由な提案を同席する管理者に伝え運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回、個人評価を行い、職員一人一人の努力や成果についての把握に努め、給与・労働時間・職場環境は出来る限り、他に劣らない様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修情報を収集する中で職員の段階に応じて年に最低1人一回は必要な外部研修を受講出来る様にしている。又、施設内でも定期的に勉強会を行い、計画的な人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とも交流は少ないが研修等の機会に同業者の取り組み状況等を聞いてきて、良い所は取り入れて行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった時点で本人や家族が困っている事や不安に思っている事を十分に聞かせて頂き、要望に沿った解決の方法と一緒に考えることで本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や要望等も聞きながら事業所としての対応方法・終末期の話など不安な部分等について十分話し合い、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況等を聞き取り、事業所として出来る必要な支援と、他の利用可能な社会資源等を提案し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で時間をかけて傾聴に努め、信頼関係を築いている。時には、気持ちに寄り添い、思いを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子を月一回のお手紙で伝えたり、状態を電話やメール等で細めに報告し、ちょっとした事でも家族に相談しながら本人との関係性を維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、以前から利用していた美容院等を継続して利用し、ドライブ時には出来るだけ利用者が希望する場所に行けるようにする等、関係が途切れない様に努めている。	利用者が以前から利用している美容院や商店を入居後も利用したり、外出時も本人希望の場所に行けるようドライブ時に距離を伸ばすなど、望郷に出来るだけ応えられるよう馴染みの場との関係を維持し支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立せず、トラブルにならないよう座る席も配慮している。又、レクリエーション等を通じて利用者同士の関係がうまくいくように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性がそなわれないように退所して移り住んだ先の関係者に対して、本人の状況・習慣・注意が必要な点等について情報提供し、ご家族とも継続して連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話から本人の思いを汲み取れるように記録しており、月一回の会議で職員間で共有し本人の意向の把握に努めている。	日頃の会話から、出来る限り思いを汲み取るように努力して記録に残し、毎月の定期会議で職員全体で把握し本人本意の意向に向けて活用する様話し合いを続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や今までの暮らし方については出来るだけ詳細に聞き取りを行っている。又、日々の会話の中でも今までの生活についての情報を得て、本人の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のその日の状態や出来る事を申し送り等で把握し、一日の過ごし方については「24時間シート」に出来事を記録して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議で本人の意向や現状について話し合いモニタリングを実施し、三ヶ月毎に評価を行っている。家族には面会時等に本人の状態を報告する中で意見を頂き、医療関係者には受診や往診時に意見聴取し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の職員会議で入居者夫々の意見希望を話し合ったり、家族面会時や受診を利用し医療関係の情報を得て3ヶ月毎に見直しを図り、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子やケアについては出来るだけ詳細に記録し職員間で情報の共有を行っている。月一回会議をもち、本人の意向の把握に努め、介護計画の見直し等の必要性についても検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院の送迎や付き添いは基本的に事業所に対応し、家族と共に医療機関との密な連携を図っている。又、生活用品等必要がある場合も事業所に対応し、買い物に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に幼稚園・小学校があり、年間行事として訪れてくれ、子供達との交流の機会が持っている。又、夏祭りにも参加し盆踊りや夜店も一緒に行った。秋祭りでは近くに八幡神社があり、地域青年団が馬を連れて来て、馬子唄を聞かせてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診はあるが今までのかかりつけ医や専門病院への受診を支援している。病状の変化などで新たに受診する場合も家族と本人の希望に沿って最適な医療が受けられるように支援している。	施設担当医の往診と本人や家族の希望による医療機関を受診し納得のいく適切な医療が受けられるよう支援しており、訪問看護も毎週定期的に行われ健康管理面について相談しながら適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、毎週定期的に来てもらっている。日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行って貰っている。又、必要時は法人内に勤務している看護師に相談して連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室への情報提供を行い、本人に面会して状態の把握に努めている。退院時にはカンファレンスを依頼し、退院後の注意事項・入院中の様子等を教えて頂き、職員間で情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化対応・終末期ケア対応指針により説明し、話し合いの上、意向を確認している。又、必要な状態となった場合は重度化及び看取りに関する指針等の文書も備えており、主治医・訪問看護師との連携も取られている。職員は看取りに関する研修に参加したり、終末期の状況を全員で共有する等、取り組みを重ね家族の協力も得て実際に看取りを行った経緯もある。	入居時、重度化対応・終末期ケアの必要になった際、施設で出来る事、出来ない事を説明し意向を確認しており、主治医、訪問看護師、施設全職員ともチームで取り組みを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回救命救急士による講習を行っている。職員全員が心肺蘇生法とAEDの使用方法を学んでいる。救急車の呼び方や誤嚥時の対応等についても対応の方法を講習して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回消防署立ち合いで火災避難訓練を実施しており施設内でも一回行っている。運営推進会議を通じて地域に呼びかけ2名の参加を得ている。又、今年度については近隣の方や消防団の方にも協力を仰ぎ、避難訓練への参加を依頼する予定である。	災害対策訓練を年2回実施しており、1回目は消防署立会いの元施設の訓練を実施している。今後は、近隣の消防団 や住民の参加協力を依頼する予定で地域協力体制を拡大しようと努力している。	近隣消防団との協力関係をさらに深める様希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・トイレ介助では一人一人に合わせて、プライバシーの保護に努め、声掛け等についても誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。又、言葉遣いや声のかけ方についての勉強会を行っている。	入浴、トイレ介助、食事の際は、人格・プライバシーを損ねない様に言葉遣いや声掛けなど勉強会を開催し、接遇等について学んでいる。声掛け時には笑顔にて小声でそっと気使いながら誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面において本人が選択出来るような尋ね方をして出来るだけ自己決定を促している。どちらでも良いと言う場合は、職員の判断ではなく提案するような形で本人の思いを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望に添っての支援は難しいが本人の体調や気分等に十分配慮して食事・入浴・外出等支援できるように話し合っており、その日の希望やペースに添って臨機応変に対応しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を自分で選んでもらったり、職員と一緒に選んで着てもらっている。又、馴染みの美容院から来てもらったり男性は髭剃りし、女性は整容等でその人らしい身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感に配慮した食材で献立を立てており、調理中の匂いを話題にして美味しさをアピールし、楽しみにして貰えるように支援している。又、おしぼり巻き等可能な部分は一緒に行ってもらっている。	地域でも少なくなった山菜等を用いて五目御飯を作るなど、季節の感じる献立で話題を増やし盛り付けも工夫もされている。花見には花見弁当を近くの店に頼み全員が参加できるようにするとともに、雰囲気盛り上げ、利用者の食べる楽しみづくりに努力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や一人一人に合わせた食事形態にしており摂取量は水分量と共に記録している。一日を通じて水分摂取を勧めているが少ない人には本人の好みに合わせ工夫して摂って貰っている。又、年に2度採血を実施し、栄養状態について心配な利用者には医師と連携し、栄養剤を処方する等、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、誘導を行い、本人の状態に応じて支援している。又、月に1回、歯科衛生士による口腔ケア指導を受け、利用者も定期的に口腔チェックを受けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握し時間やタイミングを見計らって声かけてトイレ誘導を行っている。リハビリパンツやパットを使用しつつもトイレでの自立に向けた排泄を支援している。オムツ使用者については定期的にパット交換している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し声掛けしながらトイレ誘導したり、リハビリパンツ・パット等を使用している方も自立に向けて習慣的な排便リズムを得られるように声掛け支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい、ヨーグルトやバナナ、牛乳、野菜の摂取を進めており、デキストリンやオリゴ糖も使用している。又、日中は体調を見ながら適度な体操や足上げ運動などで体を動かし、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日や時間帯は決めさせて貰っているが体調や気分により、その都度対応している。やむを得ない理由で入浴できなかった時は、別の日に入浴して貰っている。機械導入したことで浴槽に浸かれなかった利用者が浸かれるようになり、ゆっくりと過ごす時間があるよう支援している。	入居者は入浴を楽しみにしており、体調や気分の変化により入浴されなかった方には別の日に入れる様柔軟に日程を変更するとともに、タイミングを図って誘導している。また、浴槽に浸かれなかった方は機械浴用の器具を導入し浴槽でゆっくりと湯を楽しめる様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調、今までの生活習慣を考慮して、その人に応じた休息や安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容・効果、副作用等の説明書をファイルして職員が常時確認できるようにしており、服薬開始時には観察を行い、記録に残すようにしている。飲み忘れ、誤薬が無いよう職員同士で確認する等、十分注意している。又、緩下剤は排便の状態によって調整して服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、おしぼりの準備をする等、可能な部分で手伝って貰い、張り合いのある時間を持っている。レクリエーションで歌を唄ったり体を動かし気分転換を図っている。又、テレビで相撲や時代劇を楽しんだり、季節毎の壁画を作成したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日は散歩や玄関先でお茶会を開き、季節を感じてもらっている。又、公園に出かけたり遠足等も企画し、地域のイベントにも参加したりして外出できるよう支援している。	玄関先のお茶会、散歩など出来るだけ外出の機会を増やす計画及び努力をしている。花見には全員が参加出来る様に移動補助席付きの福祉車輛の購入とともにレンタカーでの搬送に際しては、民生委員に手伝っていただくなど、職員及び地域ぐるみで利用者を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方はお小遣い程度の現金を自分で管理されており、欲しい物がある時には自分で管理されている中から支払いをしている。職員は見守りを行い、出来ない時には声かけて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今までの繋がりを大切に、年賀状や暑中見舞いを書ける方は自分で書き、書けなくても職員が手伝い書いてもらっている。希望時には切手やハガキを準備したり投函する等、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は食堂と兼ねており、すぐ近くで調理の様子が見て取れ、美味しい匂いと共に生活感を味わえている。又、玄関には花を活け、トイレには花を飾り、生活感を取り入れている。自然豊かな環境なので外出する事で季節を感じる事ができる。温度は冷暖房で調節し、適宜換気をするようにしている。	玄関には、花の好きな入居者と一緒に植えた花を並べており、居間では入居者それぞれが自由につるげる様にイス、テーブルなど配置され生活感にあふれた家族団らんの風景が溢れている。また、スタッフが入居者の話相手をしたり笑い声の広がる居心地の良い空間を工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者利用者同士で食事の席を一緒にして、安心して食事等を楽しめるようにしている。玄関近くに長椅子や一人用の椅子を置いてあり、思い思いに過ごして貰えるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた鏡や時計を持ち込み、家族の写真を飾っておられるなど一人一人の居心地良さを配慮している。部屋がわからない利用者には入口にお気に入りの服で家族が作ってくれた暖簾をかけている。	入居時家族に馴染みの生活用品が今後の生活に安心感を持たせる事を伝え本人の気に入った品物・時計・鏡・写真等を生活を楽しめる様に配置し、居室入り口にはお気に入りの服でつくった暖簾をかけたりと居心地良く過ごせる様工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体状況に合わせて手すりを設定し、玄関をスロープにしている。廊下・居室等の導線には物を置かず、自由に移動して頂けるようにし、トイレや居室には一目で分かるように貼り紙や名札で表示している。		